

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービスいっぽいっぽ				公表日	2025 年 3月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	運動スペースと集中して課題に取り組めるスペースが分かれており、たくさん運動遊びをしてから課題に集中して取り組めるように工夫されている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0	基準以上の手厚い人員配置で、細やかな支援ができる	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	0	・室内もその他のスペースも構造化されており、子どもが安心して過ごせる工夫がたくさんみられる。 ・子どもたちが分かるよう視覚的に分かりやすく表示するよう写真や足形等を使い工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	・毎日の清掃、おもちゃ等のアルコール消毒もされており、気持ちよく過ごせる。 ・換気や温度調節その都度気をつけて行っている。	清潔さについて清掃に時間をかけられるよう改善したい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	就学前の机上課題など、集中して取り組めるスペースもあり、気持ちが崩れた時に落ち着くまで先生と過ごせるスペースもある。	使えるように場所をつくっているが、すぐ使用できるよう改善する必要あり。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	1	毎日の業務前ミーティングは、その日の出勤者全員が参加し、毎週行われるミーティングも参加できる職員はみんな出席して課題や目標、達成度の振り返りをしている。また業務後はその日の利用児童の記録を残し、現時点での達成度を記録して次回利用の際の参考にしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	毎年、集計後のミーティングで共有し、課題や今後の取り組みの予定を話し合っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・ミーティング内で意見をだせる。またミーティングに出席できない日でも用紙に書いておくと話し合いをしてくれて、生かされている。 ・定期的に管理者の1on1ミーティングもあり、自分の希望やこれからチャレンジしたいことも話せる。 ・年に1度一対一で対話する時間が設けられている。 週に1回ミーティングがあり意見を言える場がある。	・週に1回のミーティング参加できないスタッフがいるため、出席できるよう日を変更するなどして参加できるよう改善する必要があると感じる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	4		・職員に周知されていないため、情報共有に努める
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	・積極的に研修に行くことを奨励されており、費用も出してしてくれるし、勤務としての扱いとなっている。 また職員間でも本や動画の紹介、共有があり、学びやすい環境が整っている。 ・職員が受けやすいよう情報流している。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	0	個々の子どもに合わせた目標設定とそれに向けての支援をしっかりと話し合っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	・毎週のミーティングに加え前日までに起こった出来事を把握できるように連絡手段がある。 ・個別支援計画計画書はいつでも見ることができ、その子に必要な支援も日々の中で話し合える。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	いつでも見て確認できる	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	毎回の療育終了後に、きまった記録用紙にその日利用した児童の記録を記入する。また行動観察から拾いあげた情報も職員全員が読めるLINEワークスの記録にて共有している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	1	すべて記載されている	新しい職員にもわかるように個別支援計画書の内容を説明する研修を行うようにする

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	毎月、運動遊び、設定活動など、活動プログラムを作成し、職員全員がみられる場所に掲示している。また業務前ミーティングにて、詳しく説明している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1	満遍なく成長を支援できる工夫を凝らしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	1	・個々の課題に合わせて、個別も集団も取り入れている。 ・その子に合わせた難易度・環境設定のなかで活動によって個別と集団を選択している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1		・送迎車に乗る場合は振り返りの時間を取るのが難しい。 ・職員全員に共有できるよう改善は必要
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	記録は紙とLINEワークスの両方に記録できるようになっており、アセスメント、モニタリングのためできるだけ記録してもらえ工夫をしている。 職員の経験年数等によっては何を記録したらいいかわからないこともあるので、他の職員の記録を読むことで自身のスキルを積み上げることのできる体制がある	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	記録やミーティングの中で複数の意見や見立て、課題の洗い出しを行いモニタリングしている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0	関係機関との会議にはできる限り、児童発達支援管理責任者と現場職員の複数人で参加し、それぞれの視点からの意見を言えるようにしている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	児童発達支援管理責任者を中心に関係機関と積極的に連携している	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	子供の様子をまとめたお手紙を渡す、実際に園に行き情報共有するなど協力して支援にあたっている。	幼稚園保育園側に支援が必要な子に対しての理解者が配置されていない所もあると感じる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	いっぱいでの様子をまとめたお手紙をお渡しするとともに、小学校に慣れた頃に保護者から学校での様子をお聞きして、必要に応じて支援に入っている。	小学校へ移行後、数年経ってから困りごとや相談が入ることがある。神戸市内において相談先がまだ足りていないと感じる。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	3	西部療育センター、のぼら学園さんとの連携や事業所間交流に参加している。	児童発達支援センターとの連携が児童発達支援管理責任者に限定されているので、職員の経験年数に応じて外部と連携できる職員を増やすようにする
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	6	・同じグループ内で音楽療法など合同で行っている。 ・事業所間交流	事業所の概要が、保育園や幼稚園には十分に伝わって欲しいのではないのでしょうか？ 現場の教諭や保育士は、発達支援事業を理解できていない現状があるように思われます。実際、自分が現職時代、わかっているようで知らなかったと反省することが多いです。知ってもらうことを目的にした活動が必要なのかも感じることがあります。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	お帳面やお手紙等で情報共有をおこなっている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	2	個別の相談に応じ、その子に合わせた関わり方や声かけ、環境の工夫を提案し経過を共有しながら、その子の成長に保護者が寄り添えるような支援を続けている	全体に対してのペアレント・トレーニングを行う場は設けていないので、必要性を検討していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	契約の際に伝えている		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点の踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	面談で、保護者の悩みや不安に寄り添いながら子供の長所に目を向けて、本人とご家族の最善の利益を念頭において計画している	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	1	面談時に保護者に確認を取り、保護者様のサインをいただくとともに、いつでも質問に応じている	知らない職員がいたため再度周知するとともに、個別支援計画の重要性を伝えていく
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	・相談があれば面談や、電話、お手紙などで丁寧に助言や提案を行い、相談という形をとってなくても送迎時の保護者の様子などからも気にかかることがあれば連絡とって相談に乗っている。 ・書面での悩み相談や子の育ちなど気になったことは職員間で共有できていると思う、	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	3	ふらっとカフェ、のびのびカフェを定期的で開催し保護者同士の交流をはかっている。	きょうだい同士で交流する機会が今はないため、今後どうするかを相談していく
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	全職員が保護者から相談あれば、できるだけ早く支援するようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	0	毎月のおたより、ホームページ、SNSを通じて情報発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	鍵付きの書庫に保管され、個人情報の取り扱いもしっかり取り決めされている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	ご本人から直接、ご希望を聞かせていただき、できるだけわかりやすく負担にならない方法でコミュニケーションをとるよう心がけている。また伝えることが困難な子どもは方法を探って、より伝わる方法を工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	7		必要性を今後検討していく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	全職員に共有されている。またいつでも読める場所にファイリングされている	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	全職員に共有されており、訓練も定期的に行われている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0	確認、共有されている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	直接支援を行う主担の先生を中心に、外出時、プール遊び、運動遊び、送迎、公園、など、様々な場面で危険を事前に話し合い、支援前のミーティングで担当や役割を話し合っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1	契約時に保護者様へ説明を行なっている	入職時と毎年、研修及び安全計画を全職員にお知らせしているが、把握していない職員がいたため再度周知する
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	毎回のミーティングで話し合わせ対応策を共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	・入職時に研修がある。また事業所内でマニュアルはいつでも見られるようになっており、全職員に対して毎年研修もある。 どうしても出席できない職員には研修内容をLINEワークスにて情報共有を行い、全員がマニュアルを読んだことも確認している。 ・全職員必須の研修で、できるだけ全員が参加できる日に研修を行っている。またどうしても出席ができない職員には研修内容の共有を行い、職員の既読がついたことを必ず確認している。またマニュアルを読んだことの確認も行われている。	入職時と毎年、研修及び安全計画を全職員にお知らせしている。また全職員が研修を受けたことがわかる記録もあるが、自分がその研修を受けていたことを把握していない職員がいたため再度周知する
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	0	こちらでは現在、必要な利用児童がないが、マニュアルが策定されており、いつでも見られる場所にある		